



主催者挨拶

公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団
理事長 木村隆昭

昨年に引き続き全国各地から多くのジュニア・ユースセイラー、指導者、保護者そして来賓の方々を浜名湖に迎え、主催者を代表して一言ご挨拶申し上げます。

本年も「第25回YMF Sセーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」がスポーツ庁、公益財団法人日本体育協会、静岡県、浜松市をはじめ多くの団体・企業の皆様方に、ご後援、ご協賛をいただき、そして安全で的確な大会運営に多くのスタッフのご協力を受け、昨年に引き続き「静岡県立三ヶ日青年の家」にてジュニア・ユースセイラーを迎え、開催できることは喜びに堪えません。

今回も前回に引き続き、独立行政法人日本スポーツ振興センターの補助を受け国内のセーリングスポーツ振興に貢献する大会として開催されます。その目的は、自然を相手にするセーリングスポーツを通して青少年の心身育成と、将来を担うセイラー諸君が、仲間と競い合う中で強い心と新しい技の挑戦にあります。そして『本格的なセーリングシーズンに入る前に自らの技量を再確認することで、今シーズンの新たな目標を設定する大会』として位置付け開催してきました。

また2020年に開催される東京五輪でのセーリング競技を、多くの国民に理解、関心を持って戴くために、ここ静岡県での開催から地域に発信することも大きな役割りと考えております。

今大会では、昨年に引き続き国際レーザー4.7級そして新たにレーザーラジアル級の種目で世界選手権国内選考会を兼ね、代表者を選考する大きな責任を負う大会となり、参加された選手が悔いのない競技を行ない、より大きく世界に羽ばたくことを願っております。

皆様におかれましては、浜名湖の自然変化に素早く・的確に対応し、日頃の練習成果を十分に発揮し、大会を通じて幅広い年代のセイラーとの交流と友情を育み、そして次への目標を見出されることを願っています。

またご引率の指導者、保護者の方々におかれましては、レース後の勉強会にも参加いただき、専門的な視点からの指導の仕方、理論など、交流を通して新たな学びが生まれれば幸いです。

最後になりますが、本大会開催にあたり、ご支援、ご協力を賜った関係各位の皆様方に厚く御礼申しあげるとともに、参加される選手諸君、指導者、保護者の皆さんそして関係者にとって、絶好なコンディションの中、「参加して良かった。素晴らしい大会」と感じられることを願い主催者を代表しての挨拶といたします。



ご 挨拶

公益財団法人 日本セーリング連盟
会 長 河 野 博 文

多くのジュニアセーラーやユースセーラーが参加して「第25回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖」が静岡県立三ヶ日青年の家で、盛大に開催されることを心よりお喜び申し上げます。また、公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団が、ジュニア育成に力を注ぎ、この大会を毎年続けて開催されていることは、日本のセーリング界にとってとても素晴らしいことと思っています。

日本各地から集まってきた若きセーラーの皆さん、日頃から練習してきた成果を発揮してフェアな精神で力いっぱい帆走し、素晴らしいレースをしてください。海では互いに切磋琢磨し、陸に上がってきたときは、お互いの友情を育んでください。

リオデジャネイロ・オリンピックが終わり、いよいよ2020年には東京オリンピックです。2020年に向かつては、国際セーリング連盟のセーリング・ワールドカップが今年は愛知県蒲郡で、2018年～2020年は神奈川県江ノ島で開催されるのをはじめ、今年の470ジュニア世界選手権など、多くの国際大会や各クラスの世界選手権が予定されており、日本でのレース開催が目白押しとなっています。

日本セーリング連盟は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに、セーリング・スポーツの素晴らしさを世界にお知らせして、感動と勇気を多くの人々に伝えたいと考えています。今回参加する選手の皆さんの中から、ワールドカップやオリンピック代表を目指す選手、また世界から集うトップ・セーラーたちが満足するレース運営を行うスタッフとして活躍する仲間たちが育っていくことを期待しています。

終わりに、本大会開催のためにご支援、ご協力を賜った関係各位の皆様には厚く御礼申し上げるとともに、この大会が好天に恵まれ、安全に運営され、参加選手の皆さんが存分に活躍されますことを祈念して、私のご挨拶といたします。